

～目次～

【1】理事長 挨拶

理事長 今井雅子

【2】TKK活動

- ・ 2025 年度 TKK 主催：医療及び家族相談会

【3】加盟団体の活動

- ・ 明日に希望を灯す動画作成委員会
- ・ ハイリハ東京
- ・ 杉並高次脳機能障害者家族会クローバー
- ・ みなと高次脳

【4】加盟団体から、「伝えたいことコーナー」

“今号から、伝えたいことを投稿していただくコーナーとして初登場です”

- ・ ハイリハ東京 「25 年目を迎えて」
- ・ ハイリハジュニアプラス 「お金にまつわるワークショップ」
- ・ 一般社団法人交通事故被害者家族ネットワーク 「相談事例のご案内」

【5】行政、他団体の活動

- ・ 国分寺 万葉の里 国分寺市関係機関連絡会「講演型研修会」

【6】“TKK 加盟事業所訪問報告” 最終回

- ・ 第 9 回 東京高次脳機能障害者支援ホーム/練馬高次脳機能障害者支援協議会

【1】理事長 挨拶

＊＊

特定非営利活動法人 東京高次脳機能障害協議会

理事長 今井雅子

2025 年度が始まり、すでに予定していた事業を実施しています。これまで私たちは、当事者や家族を少しでも支えることに繋がれば、そして現状を訴え、より良い支援を提案することにより、行政、医療、保健、福祉、教育、就労等の充実を図れればと思って活動を続けてきています。NPO 法人になって 18 年目になりますが、それでもまだまだ障害理解を得られず、当事者や家族は十分な社会的支援やサービスを受けられずにいます。かつてイギリスで社会福祉政策のスローガンとして唱えられた「ゆりかごから墓場まで」のように、高次脳機能障害への支援も、制度や年齢、地域格差などによる「支援の谷間」を作らぬよう、切れ目なく支援が続くことを願っています。今年も引き続き、ご支援くださいますようお願いいたします。

【2】TKK 活動

＊＊

<2025年度 TKK主催：医療及び家族相談会>

A 会場は、東京都心身障害者福祉センター

第1回 5/18（日） 第3回 8/24（日） 第4回 10/19（日） 第6回 2/8（日）

B 会場は、株式会社 言語生活サポートセンター（東京都杉並区）

第2回 7/27（日） 第5回 11/24（日）

◇申し込み kurakata.rtk@gmail.com 080-5773-2396（TKK 事務局）

詳しくは、次から：[2025 年度 TKK 主催 医療及び家族相談会 – TKK](#)

【3】加盟団体等の活動

＊＊

明日に希望を灯す動画作成委員会

●本年度も「公益財団法人 キリン福祉財団」の助成が決定しました。

社会復帰までの過程を動画制作し、関係者間と連携を深め、波及を期待する活動と評価されました。ますます活動を広げ深めて行きたいと思います。

活動に興味をお持ちになりましたら、いつでも下記よりお声掛けください。

講演活動も受けております。

HP: <https://www.asu2kibouwo.com/>

○みらくるTV『高次脳機能障害・特番』

・6月8日(日)14時30分～16時00分

<https://us02web.zoom.us/j/3782787584>

パスコード：39

・講師：脳外科医：丸山隆志氏

東京女子医大を始め、国内および海外でご活躍中のドクターです。

今回、第36回日本リハビリテーション看護学会にて発表された「体験談・ナラティブを活かす看護の在り方」をベースに話して頂きます。

これまで20年にわたり脳腫瘍の患者に取り組み、多くの患者さんを診てきました。

脳内に発生する癌の切除などの施術を行い、癌摘出後サバイバーとなった患者の方々を見守る活動も続けています。脳のネットワークを利用して、運動などの生活向上にて可塑性を高めるなどの取り組みも勧めています。ホームページで、直接問い合わせをすることも可能です。

参考：丸山先生のホームページ『脳腫瘍と高次脳機能障害の理解のために』

<https://www.braincogni.com/home>

ハイリハ東京

○【今後の活動】

- 7月の定例会 懇談会と茶話会
- 9月の定例会 勉強会（お金に関する勉強）
- 11月の定例会 調理会
- 1月の定例会 新年会
- 3月の定例会 相談会（医師あるいは福祉の職員）

杉並高次脳機能障害者家族会クローバー

○【今後の活動】

- 6月 家族交流会 杉並区地域生活支援支援系の主催でクローバー協力のもとで
ミニ勉強会と区内の新しい相談者と共に相談会をします
- 7月 ボウリング交流会
- その他 バスハイクを年に2回
- その他 毎月みんなの会（当事者の集まり）と
カフェクローバー（家族の集まり）を開催します

みなと高次脳

昨年より、当事者会と家族交流caféを交互に開催してみました。

やはり顔を合わせて話すことにより、色々な意見、課題が視えてきました。他の方の考え方を知ることは自分を知

ることにもなると、意見交換をする会員の方を見て思いました。何回開催しても交流は尽きることはありません。
====みなと高次脳代表 高井玲子

○【今後の活動】

(まずは～前半9月分まで)

6月5日(木)家族交流 café (ランチ付き)

6月28日(土)当事者会 (料理作り)

7月14日(月)家族交流 café (ランチ付き)

8月23日(土)当事者会

9月11日(木)相談会・交流会 (支援員とともに) 港区在住外でも参加可能

ホームページ：<https://yykoujinou.com/>

【4】加盟団体から、「伝えたいことコーナー」 **

ハイリハ東京

「25年目を迎えて」

=====

2000年に発足した高次脳機能障害若者の会「ハイリハ東京」も今年で25年となります。

当時は高次脳機能障害という言葉の意味もわからず、ただ同じ境遇の若い年齢の当事者と家族が集まったことを今でもはっきりと覚えています。あれから25年、その年月の間に地域格差はありますが、地域で相談支援を受けてもらえる場所が増えて来たことは確かです。増え続けている高次脳機能障害者にとって、私たちの経験を生かした活動を続けていきます。

ハイリハ東京の活動は2カ月に1回の定例会を開催しています。

仕事に就くための相談、就いた後の相談、会員同士の交流を深めるために懇談会や郊外活動をしています。社会の制度や資源の変化に伴い、これからも行政や医療や福祉の情報を収集して会員に届けられるよう、変わらぬ活動を続けていきます。

===== ハイリハ東京代表 小澤京子

ハイリハジュニアプラス

「設立と背景」

「ハイリハジュニアプラス」は、中学生～大学生までの高次脳機能障害当事者と家族の会「ハイリハジュニア」から23歳以上のメンバーとその家族が集まり、昨年度1年間の移行期間を経た後、2025年4月に独立、発足しました。

「活動は」

「ハイリハジュニアプラス」は、会員同士の交流や情報交換の場の提供のほか、学校を卒業し社会人となった当事者たちが自立して生活できるよう、日常生活や社会復帰に役立つ知識を学ぶ勉強会を開催します。

＝＝＝＝＝

●第1回定例会 4/26 「お金にまつわるワークショップ」 会場：首都医校

お金とは何だ?? & 日々の生活を振り返ろう

今回の定例会は、首都医校の黒田健太先生に、「お金にまつわるワークショップ」を企画、実施していただきました。黒田先生は、ファイナンシャルプランナーの資格もお持ちです。当日は、当事者13名（うち、1名は入会検討のための見学者）支援者6名（うち、4名は首都医校の学生）お手伝いの保護者4名がワークショップに参加しました。途中休憩をはさみ、「お金の歴史・機能について」「自身の1週間のお金の使い方の振り返りと発表」「ゲーム（チーム戦）」「振り返り」の4部構成で、お金について基本的なところから教えていただきました。

後半のゲームの時間では、当事者たちは、チームの仲間と一緒にお金を得るべくゲームや、ものづくりに励み、とても賑やかな会となりました。今までにない経験をした当事者もいたようです。お手伝いの保護者からは、「ドキドキしながらいくら賭けるか考えていたり、じっくり考えてゲームしたり、それぞれに楽しんでいました。」「初めてのゲームでも、ルールをしっかりと理解できたことに感心しました。知恵を働かせてお金を得る姿は予想していなかったので驚きました。」などと、報告がありました。

まとめ

当事者たちにとって、今回の定例会はお金について考える良い機会になったようです。そして、黒田先生のお話にあったように、お金について考えることから自分自身について知ることができたのではないのでしょうか。

終了後は、当事者と保護者からは、「お金にまつわるワークショップ第2弾」の開催を希望する声がたくさん寄せられました。今後も、継続的にお金について学ぶ機会をつくってまいりたいと思います。黒田先生、これからも、どうぞよろしくお願いいたします！

当事者の感想の一部を紹介

- ・自分で生活するには計画性を持たなければいけないと思った。
- ・楽しかった。勉強になった。無駄遣いしていることがわかった。
- ・私は今回お金のワークショップに参加してとても勉強になりました。お金の使い方や歴史が知れてよかったです。この会で知れたことをこれからの生活にも活かしていきます。
- ・今回行ったギャンブルで私のチームは6000コクーンの借金をすることになりました。ですので、改めてお金の大切さを知ることができました。また、講座を行う際には今回のような役に立つ講座を行いたいです。
- ・とても楽しかった。最後に1/64の確率で負けて借金で終わったのが衝撃だった！
- ・今までお金についてここまで詳しく学ぶことがなかったので、今回学ぶことができてよかったです。人それぞれ価値観が違い、お金の使い道も違うのだとゲームを通して気がつくことができました。自分のお金の使い方だけでなく、他者のお金の使い方にも認めることができるようになりたいです。

＊ワークショップに入らなかった保護者は、別室で、情報交換とミーティングを行い、首都医校の今井先生から支援に関してご教示いただく時間もありました。

＝＝＝＝＝ハイリハジュニアプラス

一般社団法人交通事故被害者家族ネットワーク

「一般社団法人交通事故被害者家族ネットワークとは&相談事例のご案内」

＝＝＝＝＝

一般社団法人交通事故被害者家族ネットワークとは

一般社団法人交通事故被害者家族ネットワーク（以下、当会）は、国土交通省選定の相談支援実施団体窓口として、交通事故により重度の後遺障害を負い、介護が必要となったご家族やご本人への社会保障制度の案内を通じ、より良い解決を目指しております。事故発生から申請、請求に至るまで、あらゆる段階でサポートを提供しており、年間300件以上の全国からの相談に対応しております。高次脳機能障害に加え、遷延性意識障害、重度脊髄損傷、ご遺族への支援も行っております。

当会の最近のサポート実績の一部をご紹介します

①高次脳機能障害の自宅介護希望事案（20歳 女性）

当会にご相談いただいたのは、リハビリ期間（事故から180日）を終了し、自宅療養中の方でした。主な介護者は母親で、見守りが必要な娘の介護を寝る間もなく行っておりました。すでに隣県に介護用住宅を購入しており、3か月後には転居予定でした。身体障害者手帳はすでに申請済みでしたが、そこでまず、障害者総合支援法に基づき、区分申請を当時のお住まいであった自治体に提出し、その申請を隣県の福祉課が引き継ぐというリレー申請を行いました。ご両親の希望は、仕事復帰後、留守の間だけでも介護人に入ってほしいとのことでした。そのため、日中のみの重度訪問介護を希望されていました。そこで、当会は、信頼できる病院のMSWから地元で頼れる相談支援員を紹介し、同時に重度訪問介護事業所に声をかけ、盤石な在宅介護の体制構築が必要であることを行政に丁寧に説明しました。その結果、ほぼ希望時間通りの重度訪問介護が認められました。区分5の事案でしたが、この地域で300時間の重度訪問介護の給付は初めてのことでした。

② 未成年者（14歳）の無免許運転による健康保険適用不可の事例（高次脳機能障害）

事故発生から1か月経過した時期に、病院の医療ソーシャルワーカー（MSW）から相談を受けました。当事者は無免許運転であったため、健康保険は適用されず、ご家族は自由診療（通常の2倍の診療費）を負担せざるを得ない状況でした。MSWからの相談時、治療費（開頭手術を含む）はすでに1,500万円程度に膨らんでいました。転院の時期を迎えていましたが、回復期リハビリテーションは自由診療では受け入れてくれる病院がなく、MSWとご家族は今後の行き先が見つからず、途方に暮れていました。

そこで、当会では、当事者が日頃から無免許運転でバイクを運転していたことを友人たちに証言してもらい、「無免許運転ではあったが運転技術はあった」ことを弁護士の協力を得て行政に説明しました。その結果、まずは健康保険が適用されました。また、当事者は14歳の男児であるため、多くの自治体では子どもの医療費が無料となります。

当事者は若さゆえ身体の回復は順調でしたが、精神的な障害が大きく残存していました。地元には高次脳機能障害を適切に診察できる病院がありませんでした。そこで、当会が持つネットワークを活用し、近県の病院を紹介することができました。

まとめ

このように、当会では賠償のみならず、社会保障制度においても被害者のサポートを精力的に行っています。尚、交通事故被害者向けの冊子「サポートBOOK」を刊行しております。この冊子は都内の全警察署にも配備されて

おり、ご希望の方には無料で配布しておりますので、下記からお申し込み下さい。

<https://www.jiko-kazoku.com/supportbook/>

また、年間6回をめぐりにセミナーを開催しております。ホームページにセミナー情報がありますので、ぜひご参加ください。

一般社団法人交通事故被害者家族ネットワーク

<https://www.jiko-kazoku.com/>



====上田 育生

【5】行政、他団体の活動

＊＊

国分寺 万葉の里

○「高次脳機能障害の基礎理解と対応～いくつかの体験を通して理解してみよう～」

6/19（木）14:00～16:00 国分寺市関係機関連絡会「講演型研修会」

講師：東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援担当 課長代理 守矢亜由美氏

①当日：対面式

②後日：youtube 配信（1か月前後の限定配信）

※①と②の両方の申し込みも可

◇オンライン申し込みフォーム

<http://web.gogo.jp/manyounosato/form/koujinou>

社会福祉法人万葉の里 国分寺市障害者センター内 地域活動支援センターつばさ

高次脳機能障害者支援促進事業 担当：松原、鈴木

◇申込締切：6/16

◇問い合わせ： Tel 042-321-1136/Fax 042-321-1207

【6】TKK 加盟事業所訪問報告 最終回

第9回 東京高次脳機能障害者支援ホーム/練馬高次脳機能障害者支援協議会

＊＊

2025.3月、東京高次脳機能障害者支援ホーム（通称：HiBDy.Tokyo/ヒブディ・トーキョー）

： <https://www.tokyoengokyokai.or.jp/03nerima/> にお伺いし、東京高次脳機能障害者支援ホーム：相良宏司施設長・紺野俊嗣自立訓練係長および練馬高次脳機能障害者支援協議会：今井克代表（練馬区立心身障害者福祉センター管理者）にお話をうかがいました。

支援ホームは東京都によって 1970 年に練馬区西大泉の地に設立され、社会福祉法人東京援護会によって運営が開始されました。

2016 年には民設民営化され現在に至っています。

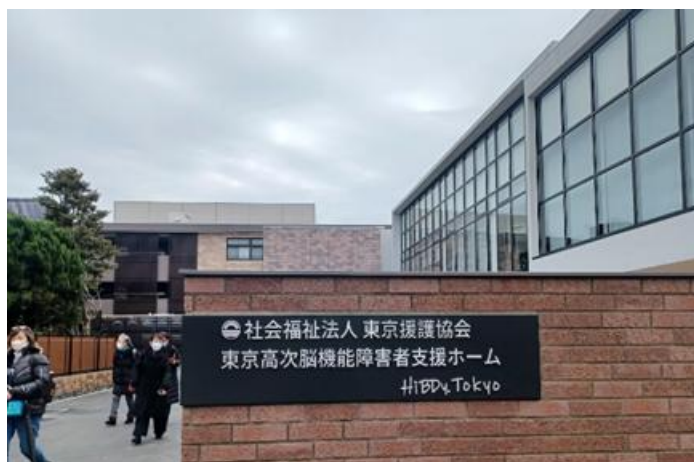
この度同じ敷地に新たな建屋が建築され、2025.2.1 に利用開始されました。

定員は自立（機能）訓練 20 名、生活訓練 30 名の入所型支援ホームで、高次脳機能障害に特化した入所ホームとして有数の規模を誇っています。



左から今井克代表、紺野係長、相良施設長

今回新たな建屋となった施設は全体的なスペースが旧施設の 1.4 倍で床面積約 4 千㎡、活動室・リハビリテーション室をはじめ交流スペース・浴室が大幅に充実され、また居室は完全個室になりました。



手すりが整備されている浴槽



施設各所に設置されている交流スペース

自立（機能）訓練、生活訓練とも利用者は東京都民、18～64 歳の方、利用に当たっては都内の自治体、相談支援事業者経由で申し込みを受け付けています。

練馬高次脳機能障害者支援協議会 代表：今井克氏

当協議会は練馬区立心身障害者福祉センターおよび東京高次脳機能障害者支援ホームが中心となって運営し、TKK に加盟しています。

2008 年、練馬区に高次脳機能障害関係者連絡会が発足、それ以降、家族会、高次脳機能障害を専門的に支援するサービス事業所、回復期病院も開設される。それらの社会資源のネットワークを計るため、2017 年、東京高次脳機能障害者支援ホームと練馬区立心身障害者福祉センターが中心となり練馬高次脳機能障害者支援協議会が発足しました。

障害者支援事業所、介護保険事業所、医療機関、家族会等に向けに講演会、講習会を年数回開催し、関係機関のネットワークづくりを行政と連携して行っています。